

中里小学校4年生がごみについて学びました



中里小学校4年生が9月14日(金)に、町一般廃棄物最終処分場と西部クリーンセンター(つがる市)を訪問しました。家庭から出たごみがどのように処分されているかを実際の施設で見て、様々な工程があることを学びました。ここでは、児童たちが学習した内容を見ていきます。



ごみ収集車搬入の様子

ごみはまず、西部クリーンセンターへ

各家庭から出たごみは、ごみ収集車が回収して、西部クリーンセンターへ運ばれます。西部クリーンセンターでは、車両の重さを量った後にごみを荷台から降ろして再び重さを量ります。このときの差が搬入したごみの重さになります。運ばれたごみは、ストーカ式と呼ばれる方法で焼却されます。しかし、最近では生ゴミなどの水切りがしっかりされていません。十分に水切りをすることで、ごみ収集車の故障減少、効率のいい燃焼、そして西部クリーンセンターの延命にもつながります。水切りネットなど有効活用して、水切りをしっかりとしましょう。

リサイクルできる物は分別して資源ごみへ

平成28年度の実態調査で、県民1人1日当たりのごみ排出量1,004gに対し、当町の排出量は835g(40市町村中11位、平成27年度は838gで11位)と大きく下回り、県内でも上位にランクされました。一方で、リサイクルですが、県全体の15.3%に対して、当町は10.3%(40市町村中31位、平成27年度は11.4%で29位)と大きく下回る結果となりました。

下回った原因としては、燃やせるごみの中に、まだまだリサイクルできる資源が多量に混入されていることが挙げられます。資源ごみは4月に每户配布しました「家庭用ごみ分けガイド」を見て分別し、町全体のゴミ減量化を目指しましょう。



燃やして出た灰は、最終処分場へ

ごみを燃やすと残るのが灰です。これ以上燃やすこともできないため、埋め立て施設の町一般廃棄物最終処分場へと運ばれます。ごみを燃やした灰のほか、燃え残ったごみ、燃やせないごみが集められます。この最終処分場では、およそ15年分の廃棄物を受け入れ可能です。しかし、家庭から出されるごみが多いと、最終処分場へ運ばれてくるものが増えてしまい、埋め立て地がすぐにいっぱいになってしまいます。新たに埋め立て地をつくとすると多額の費用が掛かります。ごみの分別を徹底して、必要ないものは買わないことで、最終処分場を長く使えるようにしましょう。



最終処分場では、汚れた水が出てしまいます。そのため埋め立て地をシートで囲み、汚水を集められるようにしています。集めた汚水は薬品や微生物のはたらきで分解したきれいな水を尾別川に流しています。児童たちは、その工程途中の水を見比べて、驚いていました。

分別した資源ごみはストックヤード、または各団体の回収へ

町内には10か所のストックヤードがあり、資源ごみを集めています。ゴミを分別することで処理施設の延命につながるだけでなく、循環型社会実現への貢献にもつながります。ストックヤードのほかに、自治会や婦人会、子供会など10団体が独自に集団回収を行っています。

一ストックヤードに出せる資源ごみ一

- ・新聞
- ・雑誌
- ・雑紙
- ・段ボール
- ・紙パック
- ・白色トレイ
- ・発泡スチロール
- ・その他のプラスチック

※上記以外のゴミは、持ち込まないでください。
※カン類、ピン類、ペットボトルも

◎白色トレイ、その他プラスチックは、汚れを落とし、乾かしてから半透明の袋にまとめて持ち込んでください。

ストックヤードはきれいに使いましょう

これは中里消防署となりのストックヤードの状態です。このような乱雑な扱いが続くと、ストックヤードの運用を停止する場合があります。「ごみ分けガイド」のとおり分別し、みんなが気持ちよく使えるようにしましょう。

